

2020年度 新型コロナウイルス感染症対策 緊急要求書

日頃、福祉支部および職場での組合活動に対し、ご理解とご協力をいただき感謝いたします。

2020年1月に国内で初めて新型コロナウイルス感染症者を確認してから日本全土に感染が拡大し、3月には船橋市内でも初めての感染者が確認されました。その後も感染拡大は収まらず、緊急事態宣言の発令、保育園の休園、市内でのクラスターの発生と続き、職員にも感染が広がっており今まで経験したことのない事態となっております。

このような状況の下、組合では6月15日～7月17日の間「職場実態アンケート」に取り組み、8月7日には市長懇談を行い職場の声を直接市長にも届けてまいりました。

つきましては、この間の職場の声やアンケートに基づき下記の要求で「新型コロナウイルス感染症対策緊急要求書」をアンケートの自由筆記項目と共に提出させて頂きます。職場の声を真摯に受け止め、回答いただけますようよろしくお願いいたします。

尚、回答は10月16日までにお願いいたします。

記

<職場の安全に関わる要求>

1. 感染予防のサージカルマスクや冷感マスク等、職場環境に見合ったマスクを定期的に配布してください。
特に食事の際、マスクの交換をするように言われているので、その際のマスクの支給をお願いします。また、消毒液や石鹸を切らさないようにして下さい。
2. 密を避けるため活動や時間外保育を分ける努力をしていますが、スペースと人員が足りません。自粛可能な家庭への呼びかけをし、クラス内の密を少しでも避けられるように保護者へ働きかけて下さい。

1

2020年度 新型コロナウイルス感染症対策 緊急要求書

どろんこ

2020年9月9日(水)

646号

船橋市職労福祉支部

発行責任者 土佐千代子



皆さんから頂いたアンケートを元に『新型コロナウイルス感染症対策 緊急要求書』
作成し、9月9日(水)保育園管理課課長に提出してきました。
回答が届きましたら、お知らせしますね。

3. 体調の悪い子どもを隔離する場所が無いため、パーティションなどで簡易的にでも個室が作れるようにして下さい。
4. 密を回避しながらどう保育したら良いのか、どこまで消毒を行ったら良いのか、日々悩みながら保育しています。専門家による具体的なマニュアルを作成して下さい。
5. 発熱や症状があった際、濃厚接触者でなくても安心して体調の経過を見られるよう、職免での休みを保障して下さい。
6. 感染防止の為、各園に洗濯乾燥機を設置して、消毒作業の軽減をして下さい。

<その他の要求>

1. 新型コロナウイルス感染症防止対策として、早急に必要材料や物品の購入をして下さい。
2. 在宅勤務が導入されることも見越して、必要最小限の勤務体制を考慮しておくことも必要だと思います。どの職員にも不安やリスクがあると思いますが、特に妊婦が公共交通機関でなくマイカーで出勤した場合、交通費のみなし支給するなど、配慮して下さい。
3. 今回緊急事態宣言の対応等、色々な決定が遅れたため、対策までの準備時間がありませんでした。現場に余裕を持って行動できるよう早期決定、方針を打ち出して下さい。また、メール配信など利用し決定事項がすべての職員に正確に伝わるようにして下さい。
4. 保育園は感染リスクの高い現場です。感染症に対するワクチン(インフルエンザ、肝炎等)を助成して受けられるようにして下さい。
5. 現場職員の意見や声を聞いて下さい。(別紙添付)

3

3. エアコンの効きが悪く、つけていても室温は30度を超えている時もあります。窓を閉めると効果的なので閉め、30分おきに換気を行うようにしていますが、一人担任や活動によって難しい時があります。また、マスクをしている状態では、更に暑く熱中症も心配です。エアコンの点検を行い、必要に応じて修理、交換して下さい。
4. 冬場、現在でも加湿器が少なく、工夫しても湿度を50～60%に保つことが難しい状況です。換気を充分に行うと更に湿度が下がります。保育室に見合った加湿器の設置をして下さい。

<人員に関わる要求>

1. 園内や玩具の消毒、密にならないように配慮しながらの活動や保育、食事などで人手が必要です。新型コロナウイルス感染症対応要員の確保を至急お願いします。
2. 新型コロナウイルス感染症対策で精神的にもきつい中、時間外保育士の欠員や支援見込での超過が多く、体力的にも限界です。募集してくれているのはわかっていますが、待っているだけでは先が見えません。課からの応援等、対策を考えて頂き、せめて欠員をうめて下さい。
3. 密にならないよう、合同保育をしないようにしているため、事務など仕事が終わりません。事務職を配置して下さい。
4. 人員が足りない為の残業が多くあります。人員の確保を早急をお願いします。
5. 人員不足で時間外の保育応援や支援見込、コロナ対策による保護者対応、7-7当番や会計年度任用職員のカバー、事務のための超過が増えています。コロナ感染が拡大する中での日々保育は神経がすり減り、限界を感じている職員も多いため、人員の確保をお願いします。

<仕事内容に関わる要求>

1. 保護者への本庁メール配信の方が園内での情報把握より早いことがありました。また、情報が伝わっていない、園によって対応が違う(特に職免について)などもありました。情報共有の仕方を明確にしてください。
2. 食事の際、手づくりでビニール等の仕切りを作り、感染予防をしていますが、使用頻度が高く壊れやすいため、しっかりしたものを用意して下さい。

2

コロナ感染防止のために

皆さん、日々悩みや迷いを持ちながら“新型コロナウイルス感染症対策“を行っているようです。今回は WHO が7月7日、新型コロナウイルス感染症の空気感染の可能性について言及し、「空気感染に対応すべきだ」と WHO に提言した科学者の一人、国立病院機構仙台医療センター臨床研究部ウイルスセンターの西村秀一さんの発言を紹介いたします。

一般社会においてエレベーターのボタンを直接指で押すことはやめましょうとか、しょっちゅうドアノブを拭きましょうとか、スーパーマーケットのプラスチックパックの表面をアルコールで消毒しましょうとか、今回の新型コロナはウイルスであるのに細菌であるかのように語られていることが多い。

細菌はそれ自体が自立性の細胞なので条件が揃えばそれ自身で増えるが、ウイルスは細菌のように自立して増えることはできず、他の細胞、それもそのウイルスに適した極めて限られた種類の細胞に入り込まないと増えていかない。

ウイルスは体の外に出た後もいつまでも生きてるように言う人がいるけれども、それは大きな誤りで、外に出た状態にもよるが時間経過とともにどんどん失活していく。

物の上で数時間生きていたりとか、数日生きていたりと言われて皆、消毒に神経質になっています。

プラスチック上で4日という話が独り歩きしているが、それは大量のウイルスを生き残るための最適に近い条件においた実験での話で、一般の社会生活とは別の話だ。ウイルスは時間の経過とともに、大きく減っていく。

実験条件によって1時間から3時間ぐらいで半減し、そこからまた同じ時間で半減するので、よほどたくさんのウイルスがいないと長時間残らない。

たとえ少し生き残ったとしても、それを指で触って指に移る効率はかなり低いし、さらにそれが感染につながるまでの間にウイルスは死ぬ。

「よほどたくさんの」というのは、たとえば咳やくしゃみで落下する液滴レベルではそこまで達しないし、感染者がマスクをしていれば、それすらないと断言できる。

繰り返すが、理解して欲しいのは、生きている人の体内には病原ウイルスはいるが、環境にはほとんど存在しないということ。

周囲に感染者がいて、その唾液がべったりついているようなところを触れなければ、接触感染は成立しない。部屋や用具の消毒などの接触感染対策に力を入れる必要はありません。

空気感染に対する対策は、換気などして3密を防ぐこと。1時間に2回以上は部屋の空気を入れ替える事が必要。トイレや浴室の換気扇を回し、部屋の窓を開け、扇風機は窓の外に向けましょう。

■蛍光塗料による実験

私は以前、新型インフルエンザの流行期に環境調査をやってみたことがあるが、何度やってもまったく検出できなかった。その代わり細菌はうようよいた。

視覚に訴えるために蛍光塗料で代用して見る環境のウイルス汚染の映像があるが、ウイルスは蛍光塗料とはまったく別物である。蛍光塗料を手にとり付けるときの量、あるいは空中に噴霧してあちこちの壁にまんべんなく付着するほどの量のウイルスを人は出していない。出ているのはそれらに比べたらきわめてわずかということになり、さらに感染性の点から見れば、体から出たそのわずかな量のウイルスもその後時間とともに死んでいき感染性は失われる。

☆空気感染対策や空気環境、また秋から冬への準備として9月2日発行の『ふなみち 第3512号』に記載がありますので、合わせて参考にして下さい。